

奈良時代(710～784年)

奈良時代のかなり大雑把な流れ

◎奈良時代の舞台

710年に平城京(現在の奈良県)を首都として、784年までの間はこの場所が中心となった。

◎藤原不比等の政策

藤原不比等・・・藤原(中臣)鎌足の息子で、鎌足が、臨終の際に天智天皇(中大兄皇子)から藤原の姓をもらう。

718年 大宝律令を編纂し(養老律令)、その内容は刑法に当たる律と、行政法、民法にあたる令からなる。

◎聖武天皇の時の政策(724～749年)

・皇族の^{ながやのおおきみ}**長屋王**が実権を握っていた。



・724年 多賀城を(現在の宮城県に)設置し、東北・蝦夷征討の拠点となった。



・729年 ^{ながやおう}長屋王の変
藤原不比等の息子4人が長屋王を自殺に追い込んだ。



しかし

四子とも天然痘にかかり死亡する。



皇族出身の^{たちばなのもろえ}**橘諸兄**が実権を握る。入唐経験のある^{げんぼう}**玄昉**と^{きびのまきび}**吉備真備**も政権に参加する。



・740年 ^{ひろつぐ}藤原広嗣の乱

藤原広嗣が橘諸兄の失脚を狙い、その中心核であった玄昉と吉備真備の追放を求めて九州で反乱を起こす。